

Topics トピックス ✨ ✨
歴史博物館注目のニュースをご紹介します!



B5判 155ページ オールカラー
価格1,000円(税込)

展示案内、絶賛発売中!

原始から現代までの石川の歴史がこの1冊に凝縮されています

2015年(平成27)4月にリニューアルした当館の常設展示の展示案内が完成し、ミュージアムショップにて販売しております。展示資料の写真や図表等を用いながらわかりやすく解説していますので、ご来館の際はぜひ手に取ってみてください。

- Contents**
- ▶ 石川県立歴史博物館へのいざない
 - ▶ 展示マップ
 - ▶ 第1章 原始 豊かな自然となりわい
 - ▶ 第2章 古代 日本海を行き交う人びと
 - ▶ 第3章 中世 武士と一揆
 - ▶ 第4章 近世 加賀藩の政治と文化
 - ▶ 第5章 近代 近代国家と石川県
 - ▶ 第6章 民俗 加賀・能登の祭り
 - ▶ 建物100年ギャラリー
 - ▶ 館内マップ

※郵送での販売も承ります。詳細な購入方法については当館ホームページの利用案内よりミュージアムショップのページをご覧ください。
<http://ishikawa-rekihaku.jp/about/periodical.html>

次回展覧会のお知らせ

Upcoming Exhibition

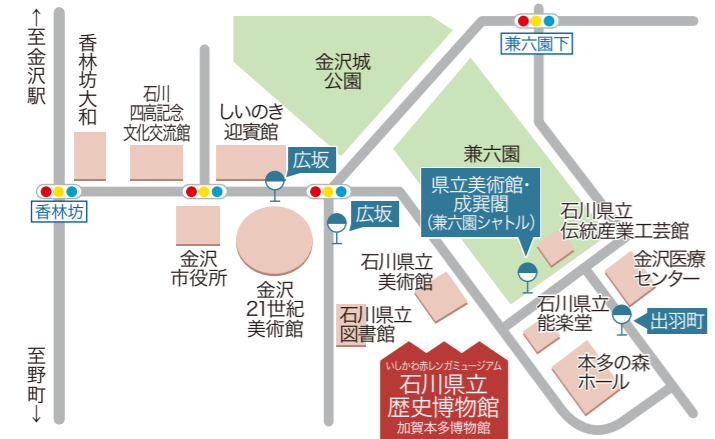
リニューアルオープン5周年記念 **春季特別展**

いしかわ 神々の遺宝 (仮称) 2019 4/27(土)~6/2(日)

里山・里海そして奥山の恵みにあずかる私たちのふるさとでは、古来よりさまざまな神々と寄り添う暮らしがありました。本展では、これまで目にふれることのなかった神像や本地仏など、神々にまつわる選りすぐりの遺宝の数々を展覧し、その信仰の歴史と美の世界をたどります。古代では、「汀の正倉院」とも言われる羽咋市寺家遺跡から出土した多彩な祭具のほか、漂着神と習合した仏像などを展覧し、海と向き合ってきた人びとの信仰を紹介します。また、中世では石川を代表する神像彫刻や本地仏・垂迹曼荼羅などにスポットをあて、民心がもつめた神の姿をみつめます。その見どころは、これまで門外不出とされてきた重要文化財久麻加夫都阿良加志比古神坐像(七尾市久麻加夫都阿良加志比古神社蔵)が千年の時を超えて初公開されることです。このまたとない機会に、人びとの心に顕れた神の姿とともに石川の「神道」美術の粋をご堪能下さい。



久麻加夫都阿良加志比古神坐像
重要文化財
久麻加夫都阿良加志比古神社蔵



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836
E-mail:rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
<http://ishikawa-rekihaku.jp/>



広告
フレッツ光で賢くインターネットを始めませんか?

- ✔引越しの予定がある
- ✔CSTVに興味がある
- ✔インターネットの料金が低い
- ✔インターネットの速度が気になる

※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「Bフレッツ」(いずれもインターネット接続サービス)の総称です。
※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。
※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダーとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります。)

詳しい内容お問い合わせ
受付時間/9:00~21:00(年末年始を除く)
NTT西日本販売代理店株式会社エイエス・コミュニケーションズ

0120-949-388

石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.128
2019.1.24

金谷御庭之図(水上一久氏旧蔵資料)



企画展 **れきはくコレクション 2018**

REKIHAKU COLLECTION 2018

2/2(土) 3/17(日) **会期中無休**

開館時間 9:00~17:00(展示室入室は16:30まで)
観覧料 一般300円(240円)、大学生240円(190円)、高校生以下無料
()は20名以上の団体料金、65歳以上は団体料金
上記の料金で常設展もあわせてご覧いただけます



壁土細工牡丹文様付硯箱



REKIHAKU COLLECTION 2018

会場 石川県立歴史博物館 企画展示室 開館時間 9:00~17:00(展示室入室は16:30まで)

観覧料 一般300円(240円)、大学生240円(190円)、高校生以下無料
()は20名以上の団体料金、65歳以上は団体料金/上記の料金で常設展もあわせてご覧いただけます

展示解説 2/17(日) 13:30~14:00
要観覧料 申込不要

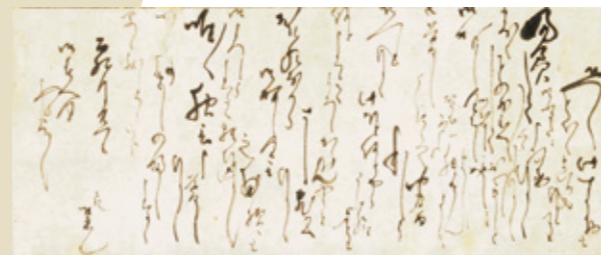
会期中無休
2/2(土) ▶ 3/17(日)

石川県立歴史博物館では、石川県の歴史と文化に関わる資料を体系的に収集しています。当館の所蔵品は、その多くが県民の皆様のご好意でご寄附いただいたものです。平成30年には、次頁の一覧表のとおり、寄附や購入で2235点の資料を新たに収蔵することができました。この企画展では、2018年の新収蔵資料を公開します。ここでは、展示品のなかでも、特に注目される資料をご紹介します。

水上一久氏旧蔵資料

水上一久氏(1912~1962年)は、金沢市出身で、第四高等学校から東京帝国大学に進学し、立命館大学や金沢大学で教授をつとめました。中近世史の研究で大きな業績を残された歴史学者で、同氏が所蔵していた古文書や絵図などの多量の資料が遺族から寄附されました。

古文書の多くは、加賀藩の郡支配に関わる御郡方の史料で、御用留や触書などが含まれています。絵図には、金沢城の金谷御殿の庭園が描かれた「金谷御庭之図」があり、幕末~明治初期の庭園の様子を詳細に知ることができます。また、山本基庸の書、千代女の句入りの書状など、加賀藩の文化を伝える書画や俳諧の資料も充実しています。



▲千代女書状幅(水上一久氏旧蔵資料)

金谷御庭之図(水上一久氏旧蔵資料)▼

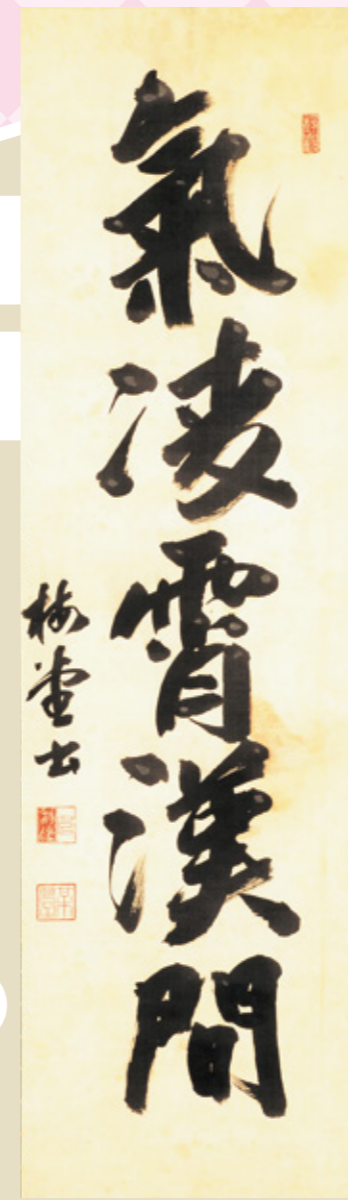


かべつちざい くぼたんもんようつきすずりばこ
壁土細工牡丹文様付硯箱

漆塗り硯箱で、蓋の上面・側面と身の側面に漆喰細工が施されています。漆喰細工は、コテを使って牡丹を立体的に表現したもので、彩色されています。木製の外箱に「天保八年丁酉二月加賀様拝領 壁土細工人御家中 堀越左源太製」と書かれています。この硯箱は、天保8年(1837)に加賀藩主から贈られたもので、藩の御壁塗(左官)の「堀越左源太」の作であることがわかります。漆塗りの木製品に漆喰で細工を施す硯箱は、極めて珍しい作例です。

◀壁土細工牡丹文様付硯箱

▼前田利為書幅



前田利為書幅

前田利為(1885~1942年)は、前田家の第16代当主で、陸軍の将校でありながら、尊経閣文庫の設立や『加賀藩史料』の編纂などの文化事業にも取り組んでいました。この書には、力強い筆致で「気凌霄漢間」(気は霄漢の間を凌ぐ)と書かれ、利為の号「梅堂」の落款があります。加賀市出身の陸軍参謀、辻政信に贈られたもので、政信の器量の大きさを称えた書と考えられます。

御礼

紙面では一部の資料しかご紹介できませんでしたが、その他にも多くの貴重な資料をご寄附を賜りました。加賀藩の足軽の家に伝わった刀・袴(杉村家資料)や挟み箱、石川県の考古学研究的基礎を築いた橋本澄夫氏(金沢学院大学名誉教授)が遺跡調査の際に残された記録など、石川県の歴史を明らかにする上で欠かせない資料を館蔵品に加えることができました。

最後になりましたが、貴重な資料をご寄附いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。



▲挟み箱

御文白山記▼



平成30年新収蔵資料一覧(受入順、敬称略)

資料名	点数	寄贈者	資料名	点数	寄贈者
杉村家資料	12	杉村 正克	近藤弘氏軍隊関係資料ほか	81	本 真理
挟み箱	1	個人	前田利為書幅	1	辻 弘信
水上一久氏旧蔵資料	473	水上 展子	金沢県魚津出張所鑑札	1	竹田 菊夫
御文白山記	1	(購入)	風景印付き葉書	937	池田 陽一
壁土細工牡丹文様付硯箱	1	(購入)	橋本澄夫氏調査資料	727	橋本 澄夫

学芸員コラム Column

「いしかわ中世のやきもの」 雑感

学芸員 野村 将之

先日まで開催していた企画展「いしかわ中世のやきもの」では、加賀・能登で中世に焼かれた陶器に焦点をあててみました。無事開催でき、本展の担当として一安心しているところです。ところで、この時期の企画展は刊行スケジュールの影響で『石川れきはく』では詳しく触れる機会がありません。そこで今回はこの場を利用して、本展について思うところを書こうと思います。

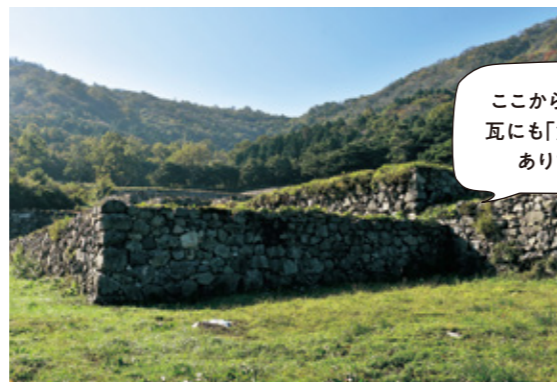
大甕は非常に重く、運搬に苦労しました。



▲企画展の展示風景。



これが「綾杉文」。ジグザグ状に残る模様が特徴。



ここから出土した瓦にも「魚骨文」がありました!

▲全羅南道珍島にある龍蔵山城跡。

本展では、当館ではおなじみの珠洲焼資料に加え、加賀焼そして能登の志加浦でつくられた焼きものを展示してみました。これらは黒色系の珠洲焼とは違い、赤っぽい色合いが特徴です。また、生産規模をみても加賀・能登以外にはほとんど流通していません。珠洲が北海道にまで流通したのとは対照的です。今回はこうした生産・流通の違いに注目し、最終的には加賀や、珠洲焼の「お膝元」とも言える能登でも焼きものづくりが成立した時代背景に迫ることができればというのが当初の狙いでした。ただ、改めて解説キャプションを見てみると、「まだよくできる」というのが正直なところで、こうしたところは展示解説などの機会を利用して補足しています。

さて、企画展の準備をしているときさまざまな発見に出会います。最後に興味深いものをいくつか紹介します。ひとつは珠洲焼についてです。珠洲焼で特徴的な文様に「綾杉文」があります。今回も展示しましたが、同様の文様は兵庫県や沖縄地方、そして遠く朝鮮半島でも見られます。このことは少し前に論文を読んで以降忘れかけてしまっていたのですが、昨年10月に韓国に姉妹館交流の研修に行った際に、ついに実物を見ることができました。韓国では「魚骨文」と呼ば

れており、瓦に施されるようです。地理的には遠く離れていても、実物を見た途端に身近に感じられるのは不思議な感覚です。「百聞は一見にしかず」とはこういうことを言うのかもしれない。

もうひとつは加賀焼についてです。実は当館の資料の中に、加賀焼の土を使っているものの、焼き上がりは珠洲焼によく似た不思議な陶器があります。同様の陶器は南加賀において少しながら出土しており、いずれも表面に刷毛のような道具で整えられた跡が残るのが特徴です。しかし窯跡も未発見など、まだまだ謎な部分が多く残されています。今回の展示では扱うことができませんでしたが、この資料についても調査を行い、いずれ展示の機会を設けたいと思います。

一口に「いしかわ中世のやきもの」といっても、見方によっては加賀・能登の地域レベルから日本海を挟んだ大陸との国際的な関係まで、地理的な部分だけをとっても大きな広がりがあります。1度にすべて扱うことはできませんので、今後少しずつ展示でお見せできればと思います。

楽しく学べる企画をご用意しています!

教育プログラム

Educational Program

・ 秋季特別展関連イベント 加賀刺繍でマカロンストラップを作ろう ・

当館では、年間を通じて展覧会に合わせて複数のワークショップを行っています。今回は秋季特別展関連イベント「加賀刺繍でマカロンストラップを作ろう」を紹介します。

加賀刺繍とは、室町時代、京都から金沢に伝えられたとされる刺繍のことです。金色や銀色をはじめとした約100種類以上の多彩な絹糸を用い、立体感のある仕上がりがその魅力です。ひと針ずつ手で縫い進め、糸の始末も丁寧に行うため、ほつれにくく丈夫なのも特徴のひとつです。

今回のワークショップはこの加賀刺繍の技法で刺繍された布地を、お菓子のマカロン風加工、ストラップにする体験です。なお、作成したストラップは持ち帰ることができます。講師は、加賀刺繍工房「椿」の伝統工芸士穴田節代氏と工房の皆さん5名です。伝統工芸士から直接指導を受けながら、しっかり加賀刺繍の技法を体験できる少し贅沢なワークショップです。

まず、午前中は30分ほど穴田先生より加賀刺繍についてのお話を、続いて当館学芸員大井から特別展で展示されている衣裳の解説を受けました。そして、昼食をさみ午後からは、制作の開始です。最初は色系選びです。用意された刺繍糸は約100色、たくさんありすぎて迷うほどです。色選びだけでも大変です。しかし、参加者の皆さ

んは楽しそうでした。実際に縫い始めていきます。刺繍台に布地をセット、伝統的な技法を使いながら刺繍を施していきます。布地の表から裏、裏から表へと針の動きを確認しながら、ふっくらとした立体的な模様を作り上げていきます。そして、これを繰り返します。縫い終わり、隠し針を2度したら、糸を切ってついに完成です。最後に、先生が布地をカット、模様が最も美しく出るように、丁寧にマカロンの形にくりぬけてくれます。世界に一つだけのマカロンストラップのできあがりです。中には糸の縫り具合や曲線など細やかな美しさなどに納得いかない方もおられましたが、約3時間、ほぼ無言で集中して仕上げた加賀刺繍ストラップは、参加者の皆さんにとっては特別なものだったようです。

(普及課長 永井 浩)



▲「加賀刺繍でマカロンストラップを作ろう」制作風景(2018.10.27)



◀作品の一例(2018.10.27)

.....
(無言で集中...!)

催し物案内

Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

2月 休館日
2/1(金)

2日 館長講演会
(土) 「豊臣政権下の前田利家」
講師: 藤井 譲治(館長)
場所: ワークショップルーム
時間: 13:30~15:00(13:00開場)
※聴講無料、申込不要

16日 れきはくゼミナール
(土) テーマ「金沢はパチンコ発祥の地? —金沢遊技場史—」
講師: 大門 哲(学芸課長)

21日 第2回 古文書講座(後期分)
(木) 「俱利伽羅長楽寺文書を読む」
講師: 塩崎 久代(学芸主任)

22日 学芸員によるワンポイント解説
(金) テーマ「三角縁神獣鏡と鍬形石」
講師: 永井 浩(普及課長)

3月 休館日
3/18(月)・3/19(火)

14日 第3回 古文書講座(後期分)
(木) 「俱利伽羅長楽寺文書を読む」
講師: 塩崎 久代(学芸主任)

16日 れきはくゼミナール
(土) テーマ「おおもとのやかもち 大伴家持と能登」
講師: 永井 浩(普及課長)

22日 学芸員によるワンポイント解説
(金) テーマ「参勤交代と藩主」
講師: 濱岡 伸也(学芸主任兼資料課長)

23日 れきはくゼミナール
(土) テーマ「加賀藩の俳諧」
講師: 濱岡 伸也(学芸主任兼資料課長)

学芸員によるワンポイント解説 全11回

要観覧料/申込不要 時間 13:30~14:00 場所 展示室
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

れきはくゼミナール 全11回

受講無料/申込不要 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は2月)

古文書講座 前期4回・後期3回

受講無料/要申込 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。
※後期分の申し込みは終了しました。

いしかわ県民大学校歴史講座 全10回

要受講料/要申込 時間 11月~1月の水曜日13:30~15:30
※今年度分の申し込みは終了しました